

やまと

得々 情報

大和木材株式会社

〒891-11

日置郡郡山町郡山1466番地

TEL ; 099-298-2288(代)

FAX ; 099-298-2290



第 5 号

1996年 12月 2日

…木炭を見直そう！！…

昔から、木炭は燃料をはじめ、私たちの暮らしに密接な関係がありました。第二次大戦後の燃料革命以来、木炭の燃料としての利用が激減しましたが、最近ではレジャー産業用燃料や農業分野の土壌改良資源、河川での水質浄化資材としてその存在が見直されています。これまで経験的にいわれてきた住宅の調湿機能についても、近代科学的な実証がなされ、健康な住宅を維持するために木炭の活躍が期待されています。

【快適な住宅を健やかに保つための木炭の特性】

①多孔質のため、吸着性、保湿性、透水性がある。

(水分だけでなく、ガスも吸着する)

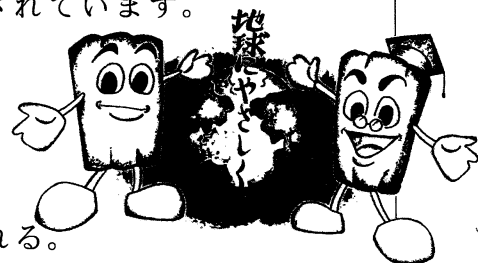
②微細な細孔の毛細凝縮により、水分は木炭内部に保持される。

③木炭は微生物により分解されないし、水による溶出もない。

④吸水による木炭の膨張はない。また、静地状態ではほとんど、細流化しない。

⑤アルカリ性を帯び、かびや微生物を調整できる。

⑥電導体であり、蓄電性もあり、電磁波の防御も期待できる。



鹿児島大学・藤田教授の全国5地域(つくば市、浦和市、岡崎市、富山市、鹿児島市)での3年間に及ぶ研究によると、木炭を敷き詰めると床下環境は著しく改善された結果を示しているそうです。但し、空気の流れを床下にうまく取り入れないと効果は出ないそうです。また、現在行われているビニールシートやコンクリートモルタルで床下土壌表面を被覆する方法(ベタ基礎)などは今後問題を生じかねないと警鐘を鳴らしています。

木炭ボードもすでに開発され、今後量産の方向にあるようです。

(以上、H8,11,16 住まいと健康創造セミナーより)

※商品情報

一般建築材の高騰は、あいかわらず続いており、品不足に木材業者も悲鳴をあげています。



(お問い合わせは、お客様サービス係の森園まで)